

皆さんの声をまちづくりへ

鶴の里懇話会

町民の皆さまの声を直接伺い、町政に反映させる「鶴の里懇話会」が町内5地区で開催されました。
懇話会では、日頃、町政に関心のある多くの町民が参加し、出席した方々からはさまざま意見や質問が出されました。
今回はその模様を一部ご紹介します。

防災無線について

Q 防災無線が整備され、大変良かったと思っています。火災発生場所など、いち早く放送され、不安を払拭しています。今後の防災に向け、その真価を発揮していただき、マンネリになることなく、活用に創意工夫していただけるようお願いいたします。

今年の秋、防災無線を使って「わら焼き防止」を1日3回放送したことで、例年よりわら焼き防止が徹底したようです。板柳・藤崎（中南地区）方面より随分と煙が少なく、とてもいい環境を維持できたので今後も継続してほしいと思います。

夕刻6時のお知らせの音楽ですが、夏場は子供たちや外で仕事をする人たちにも、大変役立ち、有効に機能していると思います。ただ、冬場については4時ごろから外は暗くなり、6時ごろは外にいる人もほとんどいなく、その意味合いがあまりないように感じます。この夕方の

チャイムは、特に子供たちには大変重要な情報ですので、冬場には5時にする、冬バージョンの曲にするなど、少し検討してみてもいいでしょうか。年間を通して6時というメリットもありますが、真つ暗な外を見ていると違和感があります。学校関係者・町内会長等と話し合われてみてはどうかと思っています。

A 防災行政無線の午後6時のメロディー放送は、無線施設の動作確認および時刻の告知を目的として毎日行っているものですが、夏場については、遊んでいる子どもたちや外で仕事を

する人たちが家に帰る目安となっており、役に立っているとの声も多く聞かれます。

行政推進員の皆さんから意見を伺ったところ、夏場同様に帰宅の目安となるよう冬場の時間を早めていただきたいという意見のほか、学校関係者からそのような要望があるのであれば考

慮するべきであるとの意見が出されました。

今後、各小学校長からの意見を踏まえながら、冬時間への変更をお願いしたいという意見が多数であれば、今年の11月ごろを目途に時間を午後5時に変更し、よければ毎年そのように運用していきたいと考えています。

また、冬バージョンの曲についてですが、現在の無線設備には、そのような曲が収録されておりませんので、どのような曲がいいのかを含めて、今後検討させていただきます。

つるりんプレミアム商品券について

Q つるりんプレミアム商品券はとても便利で良いと思います。でも、利用する店がたいがい決まっているため、なかなかA券の方を使うのに困りました。1回に1000円以上の買物をしないからです。（コンビニでもあるじやにもその他の店にも行きますが）

私だけかもしれませんが、A券は1枚500円と1000円、B券を1枚1000円つづりではいかがでしょうか。今後、またプレミアム商品券という企画があるか知りませんが、



A つるりんプレミアム商品券の事業主体は鶴田町商工会であります。商工会の共通商品券には500円券もありま

スチューベンやリングの販売価格について

Q 道の駅「鶴の里あるじや」で販売されている当地名産のスチューベンやリングについて、観光客の方から他の道の駅と比べて販売価格がやや高いという声をよく聞きます。

適正価格で販売していることと思いますが、全国へPRするためにも観光客が求めやすい価格を検討していただきますようお願いいたします。

A スチューベンやりんごの販売につきましては、J

Aつがるにしきた産直友の会の産直コーナーと、ギフト用商品を取り扱っている期間限定のブレハブの2カ所で販売しております。ギフト用については、県外や町外の方にお送りされるお客さまが多いことから、お客さまに満足していただくためにも、より品質の高いものを取り揃えております。そのため、生産者からの買入価格も高めにしているとのことです。

スチューベンにつきましては、特に冬場はその甘さが増すことから、もっと高い価格で売られてもよいのではどうかと評価して下さる方もおります。

なお、産直コーナーには、お手頃な価格のものもありますので、こちらのご利用もお願いしたいと思います。

町の文化遺産について

Q (1) 妙堂崎大開溜池について

妙堂崎大開溜池には古代からの自生植物ヒツジグサ、フトイ、ウキヤガラや水生虫等が見られます。町誌に書かれてある伝説の狐山（オガリ山）が隣接してあります。児童生徒の自然観察

の場として貴重なところですから保護をして後世に残したい所です。いかがでしょうか。

(2) 町の指定木認定について

わが町には妙堂崎のトドロツボのほか、町の指定木に野木浄林寺のシナノキがあります。このほか沖のケヤキ、境のタモ、鶴田稲荷宮の力エデなどたくさんのお古木、巨木があります。これらも町の指定木に認定し保護してはいいのでしょうか。

(3) 後世に残したい遺産について

天明、天保飢饉を悼む供養塔、胡桃館墓地などが建立されてあります。また、餓死者を葬ったとされる「イゴク跡」が松倉集落に残っております。今後の災害時の心構えにも後世に残しておきたい遺産と思います。石碑刻字はほとんど読めないほど朽ちています。解説出来れば貴重な町の歴史が分かります。

◎ 町民文化祭写真展における町民の意見について

(ア) 町内にこんなに多くの巨木や石碑があるとは知らなかった。どこへ聞けば現場へ行けるのか。

(イ) 自分たちの近くの木や神社は見たことがあるが、由来などを知らない。主要道以外の集落へ行くことがない。いいものを見せてもらった。

(ウ) これだけの名所があるなら年一回見学会を設けたらどうか。他の集落を知ることは町民同士の心の交流にならないか。

(エ) 広報で紹介してはどうか。

町の指定樹木等とは他の市町村に比べてではなく、わが町の財産として町民が愛し、後世に残してやる資産と考えてのことです。現状の感じでは町民の文化的遺産への関心は低いようです。私は自分の近くの樹木が町の指定を受ければ、そこから関心が湧き、やがて、わが集落の自慢の宝物、わが家自慢の宝物へとつながる期待を持っています。それが明るいまちづくりを生むかも知れない。そう考えての提案です。

A 鶴田町の文化遺産につきま

しては、妙堂崎大開溜池をはじめ、町の指定木認定や後世に残したい遺産などについて、現在、鶴田町文化財保護審議会においていろいろ検討をしております。また、昨年11月14日、15日の2日間、鶴田町町民文化祭において巨木や古木、石碑に関する写真展が行われ、興味深く見ていた人もいました。見学会を行うなど、町民の方々の関心が高まる方法を考えていきたいと思っています。

消防団について

Q 町の人口が減少している現在、消防団の運営は従来通りにはいかない事がいろいろあると思います。例えば、行政区の人数によって消防団の構成単位や構成人数にばらつきが生じたり、消防団と他の委員を兼ねている人も多いのではないかと思います。

そこで現状を踏まえ組織体制や構成人員等を見直してみてもどうでしょうか。構成人数を減らす弱体化ではなく、効果的な見直しを期待します。

A 当町消防団は、昭和30年

3月1日、1本部、21分団、団員629名で発足し、その後、分団の統廃合により、現在の1本部、15分団、定数300名となっております。地域住民のご理解と幹部団員の努力により、実員は280名（平成27年12月1日現在、平均39.7歳（県内40市町村中6番目の若さ）で、極端な減少こそ見られないものの定数には足らず、近年サラリーマン団員の増加やベテラン団員の減少を懸念しているところです。

各地域には分団があり、火災や風水害、行方不明者捜索など、さまざまな災害活動とそれ

を迅速・的確に行うための訓練を行っておりますが、前述のとおり、サラリーマン団員の増加により、平日昼間の災害活動が十分にできないケースが多くなっているのも事実です。

しかし、当町消防団本部が指揮を執り、各地域の分団のみで対応が不十分な場合は隣接分団が応援し、それでも不足な場合はその隣の分団が応援するといったように、当町消防団全体でカバーすることとしております。3年前の台風18号接近による岩木川増水の際も、消防団全体で人員の配置を行い、決壊を免れたのも記憶に新しいところです。

このことから、現状の1本部、15分団、定数300名で、十分な災害活動が行えると考えております。

